

令和6年度一般選抜（B日程）における小論文出題意図

人間生活学部 子ども学科

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

新潟県立大学の基本理念、人間生活学部と子ども学科のアドミッション・ポリシーに基づき、子ども学科が育てたい人材としての適性、資質及び大学の学びに必要な思考力、判断力、表現力をはかる。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

近年、多様性やマイノリティという表現が一般的に使用されるようになってきた。特に、最近まで続いた新型コロナウイルスによる自粛生活の経験は、生活上の多様な困難を抱える人たちを可視化させてきた。

また、これらの表現は、これまで気づきにくかった社会におけるマイノリティの人々に向けられる理解の大切さを教えてくれる重要な概念でもあると考えられる。

【資料1】と【資料2】それぞれの著者は、人々の生活において重要な概念であるはずの多様性やマイノリティへの理解が、「無意識の偏見」や「解体の誤謬」により、誤って理解されてしまうことの危険性を指摘している。

私たち自身が多様であることを理解し、すべての人々が最適な生活を送るためには、どうすればいいかということを考える試験問題である。

（意図）

多様であることの大切さを理解することは、私たちにとっての最適な生活のあり方を理解することにつながるのではないか、ということを考える力（思考力）をはかる。さらに、【資料1】と【資料2】は、それぞれ「無意識の偏見」、「解体の誤謬」といった異なる表現が使用されていながらも、いずれも多様性の理解につながることを読み取り判断する能力（判断力）をはかる。それらを自分なりに解釈し文章に表現する力（表現力）をはかるための設問である。